



勝因は発想の転換。従来の加工品をオリジナル商品に。

日本一の家具の街として知られる大川市。同市で生産される高級タンスや座卓といった大川家具のブランドは以前は確固たるものだった。しかし、ユーザーの生活スタイルが変化し、売り上げが減少。外国製家具の進出もあり、平成20年をピークに大川家具業界は低迷を始める。

そんな中、家具の化粧材である突板を、オリジナルテイあふれる独自の建築素材へ転換できないかと考えたのがアサヒ突板工業の篠島氏。突板が持つ、美しくみずみずしい

ユーザーの声に積極的に耳を傾け商品を改良する。

試作品を建築メーカーへ持参したところ、重量や形状面で厳しい意見が相次ぐ。しかし、篠島氏はあきらめなかった。新商品の研究開発や製造事業を支援する久留米リサーチ・パーク、福岡県工業技術センター・インテリア研究所と連携し、今まで培った技術力で問題点を改善。構想から2年目には、片面装

(上) 樹齢100年以上の銘木から作られる突板。削り立ての突板は、しっとりとして光沢があり、さわやかな木の香りがする。
 (中) 突板は用途に応じてさまざまなサイズで裁断され、家具の表面材や内装材になる。
 (下) 突板を2枚ガラスで挟んだオリジナル商品「ピアラシオ」。テーブル天板に最適。

※経済産業省工業統計調査より



有限会社 アサヒ突板工業
 福岡県大川市大字向島916-4
 TEL.0944-87-1102
<http://www1.ocn.ne.jp/~tukiita>

天然突板を柔軟な発想と技術力でさまざまな用途に合わせて提案する。

昭和47年の創業以来、天然突板のみを扱い、突板をドアや照明、サインボードなど多様な用途へ展開。光を透過するほど薄く加工しやすい特性と、突板の美しさを合わせ持つ「ピアラシオフィルム」製の照明・木星は、平成15年福岡県産業デザイン協議会・優秀賞を受賞。最近では、若手デザイナーとコラボレートした照明もリリース。木工家具の常識を脱ぎ捨て、新しい物づくりを追求する一方で、突板業の原点も忘れない。その職人魂が、ユーザーの心まで温かくしている。



篠島哲也さん／代表取締役。自身が木工職人でもある、アイデアマン。商品化に関しては、実は、奥様の馨さんのアドバイスによることが多いとか。

Company Info.



(右) 天然突板とガラスを張り合わせた新しい建築用素材「ラト ピアラシオ」。
 (左・上下) 「ピアラシオフィルム」を組合わせた照明・木星。パズル感覚で自在に形を作り出せる。

**【福岡県・大川市】
 突板を使った建築用素材とインテリア用品の開発
 及び販売促進事業
 有限会社 アサヒ突板工業**



○活用する地域資源：大川木工製品

突板とは、ケヤキやヒノキといった銘木をわずか0.2〜0.6mmに薄くスライスした木工素材。家具表面に貼る加工材や建築内装材として広く活用されている。その突板を、独自の発想と技術力でモダンインテリアへ転換させ、注目を集めているのが「アサヒ突板工業」だ。低迷気味の大川家具業界に、新発想と技術力で新しい風を吹き込んでいる。

**大川家具を支える
 突板が職人技で
 洗練のインテリアへ。**